
[23]

甲状腺がん

1 西洋医学的な知識

概念：甲状腺がんは、その組織型から乳頭がん・濾胞がん・髄様がん・未分化がんの4つに分類され、乳頭がんが最も多く、約85%を占める。また、女性の罹患率は男性の3.5倍である。

原因：放射性ヨウ素（主にヨウ素131）が原因となることが判明している。広島・長崎の原爆被曝者や、チェルノブイリ原子力発電所周辺の住人に甲状腺がんの患者が多発し、被曝後10～30年たってから発症する可能性もあるといわれている。

ヨード（ヨウ素）の過剰摂取も甲状腺がんに大きく関係しているといわれている。ヨードは甲状腺ホルモンを分泌するには欠かせない栄養素だが、不足しても過剰になっても甲状腺の異常を誘発する。しかし、日本人が摂取しているヨードは良質であるため、甲状腺がんは予後のよい乳頭がんがほとんどである。

また、一部の甲状腺がんは、一部のがん遺伝子の異常により起こることが証明されている。

症状：初期には症状がみられないことが多いが、腫瘍が大きくなると、局所の腫脹・嚔声・嚥下障害・呼吸困難・血痰などがみられるようになる。

また、甲状腺ホルモン異常分泌による全身の症状として、動悸・脱力感・手足の震え（手足振戦）・筋力低下・体重の減少・多汗・下痢・便秘・月経異常・体毛異常・足のむくみなどがある。

病期：日本では、甲状腺外科学会が提唱する「甲状腺癌取扱い規約」によって、0～Ⅳまでの病期に分けられている。

治療：未分化がん以外の第一選択は手術である。切除範囲は病期と年齢によって異なる。

甲状腺を摘出した後は甲状腺ホルモン剤を使用する。低下した甲状腺ホルモンを補充するだけでなく、通常よりもやや多めに飲み続けることで、甲状腺刺激ホルモンTSHの分泌を低下させ、乳頭がんや濾胞がんの再発率を下げることもある。副甲状腺機能低下症には、活性型ビタミンDやカルシウム製剤を用いて、血清カルシウム値をコントロールする。

一部の進行した乳頭がん・濾胞がんでは、放射性ヨードによる治療が必要となることがある。

2 古典にみる甲状腺がん

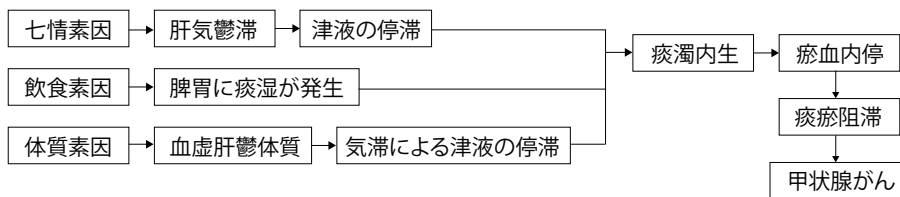
甲状腺がんの症状は、中医学の古典中の「瘰癧」「石瘰」などの病名に相当する。

『説文解字』では「瘰，頸瘤也」（瘰は頸部の腫瘍である）と、文字から説明している。

『濟生方』瘰癧論治は「夫瘰癧者，多由喜怒不節，憂思過度，而成斯疾焉。大抵人之氣血，循環一身，常欲無滯留之患。調攝失宜，氣凝血滯，為瘰癧」(瘰癧という病証は，おそらく節度のない喜怒や，過度な憂鬱と思ひ込みによって起こる。通常，人間の氣血は滯留することなく全身を循環している。もし生活の調攝が失調し，氣凝血滯となれば，瘰癧となる)と，瘰癧の病因病機を語っている。

『外科正宗』には「筋脈呈露曰筋癭，赤脈交結曰血癭，皮色不變曰肉癭，隨憂喜消長曰氣癭，堅硬不可移者曰石癭」(腫瘤表面に筋脈が目立つものは筋癭といい，腫瘤表面に赤い血脈が交結しているものは血癭といい，皮膚の色が変わらないものは肉癭といい，憂喜に従い大きさが変化するものは氣癭といい，腫瘤が硬くて押しても移動しないものは石癭という)と，5種類の瘰癧の特徴についての記述がある。その中で，石癭の症状が最も甲状腺がんと似ている。

3 弁証論治



● 病因病機

(1) 七情素因

抑うつ・怒り → 肝氣鬱滯 → 津液の輸布が失調 → 津液が痰となる → 血行が瘀滯
→ 氣滯痰凝血瘀 → 甲状腺がん

(2) 飲食素因

ヨードの摂取不足
脂っこいもの
過食
→ 脾胃を損傷 → 運化の失調 → 湿が聚まって痰になる → 氣滯血瘀 →
→ 脈絡を瘀阻 → 甲状腺がん

(3) 体質素因

女性の血虚肝鬱体質 → 氣鬱による津液の輸布失調 → 津液が痰となる → 氣滯痰凝血瘀
→ 甲状腺がん

● 弁証論治の概要

主症：前頸部の硬く固定したしこり。

病位：主に肝・脾で，心・脾・腎と関連する。

病期：主に肝脾不和・痰濁瘀毒内聚によって発症する。初期は肝鬱痰凝で，化火すると痰火になる。氣滯により瘀血も発生する。末期には陰液が耗傷し，虚熱瘀毒などがある。

治療：初期は祛邪を主にして、理気化痰・清肝瀉火・行気活血などを行い、末期には滋補心腎・化痰散結を行う。

● 証治分類

証	症状	舌・脈	病機	治法	方剂
肝鬱痰凝	前頸部のしこりが徐々に増大・胸悶・ため息・食欲不振・月経不順	舌苔白膩・脈弦滑	肝気鬱結によって痰気が互結する	疏肝解鬱 理気化痰	四海舒鬱丸
痰火鬱結	前頸部しこりの急激な増大・局所の灼熱痛・嘔声・嚥下困難・イライラして怒りっぽい・口苦・便秘・小便の色が濃い	舌質紅・苔黄膩・脈弦数	痰瘀互結して化火する	清肝瀉火 解毒散結	竜胆瀉肝湯 + 藻葉散
気滞血瘀	前頸部の硬く固定したしこりの急激な増大・頸部リンパ節腫大	舌質紫暗・瘀斑・脈渋	気滞血瘀によって腫瘍となる	行気活血 化痰消癭	血府逐瘀湯
心腎陰虚	前頸部のしこり・動悸・不眠・ほてり・寝汗・めまい・痩せ・腰と膝がだるくて力が入らない	舌質紅・瘀斑・苔少・弦細数	心腎陰虚と同時に瘀血がある	滋補心腎 化痰散結	六味地黄丸 + 天王補心丹

四海舒鬱丸（『瘍医大全』）：海蛤粉・海帶・海藻・海螵蛸・昆布・陳皮・青木香

竜胆瀉肝湯（『医方集解』）：竜胆草・沢瀉・木通・車前子・当帰・柴胡・生地黄・甘草（黄芩・山梔子）

藻葉散（『証治準繩』）：海藻・黄蘗子

血府逐瘀湯（『医林改錯』）：当帰・生地黄・桃仁・紅花・枳殼・赤芍・柴胡・甘草・桔梗・川芎・牛膝

六味地黄丸（『小兒藥証直訣』）：熟地黄・山茱萸・山藥・茯苓・牡丹皮・沢瀉

天王補心丹（『撰生秘剂』）：人參・玄參・丹參・茯苓・五味子・遠志・桔梗・当帰・天門冬・麦門冬・柏子仁・酸棗仁・生地黄・辰砂

● 常見症

症状	証	一般的な症状	治法	方剂
頸部リンパ節腫大	痰気交阻	リンパ節腫大は硬く無痛で部位が固定・抑うつ・脈弦	疏肝化痰	逍遙散 + 二陳湯
動悸・不眠	陰虚火旺	動悸・不眠・ほてり・寝汗・痩せ・舌質紅・苔少・脈弦細数	養陰清熱安神	知柏地黄丸 + 天王補心丹

逍遙散（『太平惠民和剂局方』）：柴胡・白朮・白芍・当帰・茯苓・炙甘草・薄荷・生姜

二陳湯（『太平惠民和剂局方』）：半夏・陳皮・茯苓・炙甘草

知柏地黄丸（『医宗金鑑』）：知母・黄柏・熟地黄・山茱萸・山藥・茯苓・牡丹皮・沢瀉

天王補心丹（『撰生秘剂』）：人參・玄參・丹參・茯苓・五味子・遠志・桔梗・当帰・天門冬・麦門冬

冬・柏子仁・酸棗仁・生地黃・辰砂

4 中成薬の応用

①小金丹

〔組成〕 白膠香・製烏頭・五靈脂・地竜・木鼈子・乳香・没薬・当帰・麝香・墨炭

〔効能〕 化痰祛瘀通絡

〔適応〕 甲状腺がんの痰瘀阻滯証。前頸部のしこり（硬く固定）・頸部リンパ節腫大・舌質紫暗・瘀斑・苔白膩・脈洪。

〔用量・用法〕 1回2～5粒（1.2～3g），1日2回，食後に内服。

〔出典〕 清・王維徳『外科全生集』

②竜胆瀉肝丸

〔組成〕 竜胆草・沢瀉・木通・車前子・当帰・柴胡・生地黃・黄芩・山梔子・甘草

〔効能〕 清肝瀉火利湿

〔適応〕 甲状腺がんの肝火上炎証。前頸部のしこりが急激に増大・局所の灼熱痛・イライラして怒りっぽい・口苦・便秘・小便の色が濃い・舌質紅・苔黄・脈弦数。

〔用量・用法〕 1回1/2～1包（3～6g），1日3回内服。

〔出典〕 清・汪昂『医方集解』

③当帰竜薈丸

〔組成〕 当帰・竜胆草・山梔子・黄連・黄柏・黄芩・大黄・芦荟・青黛・木香・麝香

〔効能〕 清熱瀉肝・攻下行滯

〔適応〕 甲状腺がんの肝胆実火証。前頸部のしこり・局所の灼熱痛・嗝声・嚥下困難・煩躁・口苦・便秘・小便の色が濃い・舌質紅・苔黄・脈弦数。

〔用量・用法〕 1回1丸（6g），1日2回内服。

〔出典〕 金・劉完素『黄帝素問宣明論方』

5 経験方と生薬

①五海丸

〔組成〕 海螺 20g，海蛤粉 20g，海藻 15g，海螵蛸 15g，昆布 10g，竜胆草 10g，青木香 10g

〔調剤法〕 生薬を細末にして蜂蜜で丸剤にする。

〔効能〕 軟堅化痰・疏肝瀉火

〔適応〕 甲状腺がん

〔用量・用法〕 1回2丸（12g），1日3回内服。

〔出典〕 陳世偉・張利民．腫瘍中西医総合治療．人民衛生出版社，2001，p.453

②よく使われる生薬

半夏・夏枯草・黄蘗子・猫爪草などを単味あるいは複数で煎じて内服する。

6 外用法

① 瘰癧膏

【組成】 蜈蚣 3g, 全蝎 3g, 守宮尾 3g, 児茶 3g, 黄昇丹 1.5g, ワセリン 20g

【効能】 解毒化痰・化癥消腫

【調剤法】 生薬を細末にし、ワセリンに混ぜる。

【用法】 ガーゼに膏薬を塗り、しこりのある部位の皮膚に貼る。

【出典】 周岱翰. 臨床中医腫瘍学. 人民衛生出版社, 2003, p.128

7 鍼灸療法

疼痛：扶突・合谷に瀉法を用いる。

甲状腺機能亢進：膻会・合谷・足三里・天突に平補平瀉法を用いる。

8 薬膳

① ハマグリと海苔のスープ

殻つき蛤肉 60g と海苔（紫菜）30g をスープにする。殻つき蛤肉と紫菜には化痰軟堅の作用がある。甲状腺がんの痰核（しこり）によい。

② 小麦粉と艾葉の饅頭

小麦には益気作用があり、艾葉には温経散寒の作用がある。甲状腺がん末期の頸部の腫瘍・無力感・冷えなどの陽気不足証によい。

③ スッポンの蒸しもの

スッポン 1 匹の内臓を除き、酒・醤油・生姜などで調味し、蒸して食べる。スッポンには滋陰清熱・軟堅散結の作用があり、甲状腺がんのほてり・寝汗・痩せなどの陰虚証によい。

④ 清熱作用のある食材

甲状腺手術後、甲状腺ホルモンを服用中に、興奮・動悸・熱感などの火熱症状が出る場合がある。清熱作用のあるセロリ・春菊・苦瓜などを食べるとよい。

⑤ 滋陰清熱作用のある食材

放射線治療中には、ほてり・微熱・寝汗などの陰虚火旺の症状が出る事が多い。滋陰清熱作用のある梨・百合根・蓮根などを食べるとよい。

9 治療中の養生

1. 痰気阻滯は甲状腺がんの重要な病機であり、ストレスの解消が必要である。仏手・玫瑰花・山楂子など理気活血の生薬を服用すると気機が順調になり、痰凝・瘀血の解消に有益である。
2. 甲状腺がん患者は腫瘍が気管を圧迫し、呼吸困難になる場合があるので、激しい運動を避け、散歩などの適切な運動を行うとよい。
3. 呼吸困難の軽減と痰液排出のため、就寝時は側臥位がよい。

【患者】 34歳、男性。

【初診】 2008年5月29日。

【現病歴】 1カ月前、右頸部リンパ節腫脹に気づいた。病院でB型超音波検査の結果、「甲状腺腫瘍」と診断された。リンパ節生検の結果は「リンパ節転移性腺がん」であった。入院にて抗がん剤治療2コースを受けたが、リンパ節腫脹の縮小はみられず、抗がん剤による副作用も激しいため、中薬治療を受けることとなった。

【症状】 右頸部リンパ節腫脹があり、脹痛感がある。右脇下にも脹満感がある。舌根部脹痛・咽喉部暗紅。咽喉部が詰まる感じがする。声が嘎れる。ときに胸部が痞える。舌質紅・苔黄・脈細滑。

【弁証】 痰熱瘀毒互結・肝失疏泄・気陰兩虚

【治法】 清熱解毒・化痰祛瘀・疏肝散結・益氣養陰

【処方】 酢柴胡5g、炙鼈甲15g（先煎）、炮山甲10g（先煎）、塵虫5g、桃仁10g、山慈菇15g、製南星15g、猫爪草25g、漏芦15g、夏枯草15g、炙僵蚕10g、沢漆15g、牡蛎25g（先煎）、海藻10g、玄参10g、炙蜈蚣3g、守宮3g、南沙参10g、北沙参10g、天門冬10g、麦門冬10g、天花粉10g、生黄耆15g、竜葵20g、半枝蓮20g、白花蛇舌草20g、八月札12g、炒白芥子10g、路路通10g、青皮10g、皂角刺6g。14劑処方。1日1劑を煎じて2回に分けて服用。

【経過】 同年6月12日再診。嘎声が改善し、リンパ節の腫痛も軽減したが、手で触れると痛みを感じる。腫瘍が多発しているため、咽喉部が詰まる感じがする。ときに喀痰があり、舌根部の脹痛がある。胸部の痞悶感なし。大便と小便は正常。舌質暗紅・苔黄薄膩・脈細弦滑。元の処方から白芥子を除き、浙貝母10g、山豆根6g、蚤休10g、知母10gを加える。14劑処方。1日1劑を煎じて2回に分けて服用。

その後は上記の処方を加減しながら継続した。腫節風20g、法半夏10g、露蜂房10g、鳳凰衣6gなどを加えたりした。薬を服用して半年で病状が安定した。

同年12月8日。右頸部の腫脹したリンパ節の大部分が消失し、個別リンパ節だけが触れた。疼痛なし。嘎声は改善したが、まだ正常ではない。継続して煎じ薬を服用している。

【解説】 複雑な病証に対して、周仲瑛教授はよく複法大方を用いる。複法大方とは、多様で複雑な病機に対して、数種類の治法を併用し、生薬数が通常より多い処方を用いる方法である。治法は3種類以上で、生薬数は15種類を超え、ときには20～30種類に達することもある。しかし、複法大方は漫然と雑合した処方ではなく、弁証して吟味した処方である。この症例では、初診時の処方中の生薬数が32種類に達した。再診時に、嘎声が改善し、リンパ節の腫痛が軽減したのは、その治療法の効果である。

（馬驊・蘇克雷・周仲瑛運用複法大方治療甲状腺癌リンパ節転移案1例。江蘇中医薬。2010，42（1），p.43）